

第8回検討委員会における主な委員意見等

最終提言が目指す地域コミュニティの将来像に関すること	地域には市が管理している公園がたくさんある。そういう公園の一角に、何か小さなカフェや地域住民が集うような場所を公民館以外につくることできれば、もっと校区や地域が助かるのではないかな
	集う場をどうしたらいいのかということを、皆さん考えているようだ
	コミュニティのあり方とこれから目指すものが地域性で少し変わってくる
	既にある社会資本を活用する、それから民間との連携をとる、最も身近に使われている公園を活用するという意見があった。そういうところをうまく使っていくことで、より身近に出会うことができる。ワンルームが多く建っているところにも、すぐ近くに公園はあるし、若者たちもそういうところに出て一緒に何か活動し始めれば、地域づくりにも参加できるのではないかな。だから、気楽に会える場をつくらう
	中学生や高校生たちを担い手づくりや次世代づくりということで考えた場合、とにかく忙しい世代層なので、公民館という機能と忙しい世代層がどうしたら楽しい事業を企画することにモチベーションが向くのかということも大きな課題
	ワンルーム層のエネルギーのある人たちを活用することも検討が必要ではないかな
	行政主体でこれだけは最低限しなさいという事業を増やすよりも、ある程度は地域独自の、その地域に合った事業をできるだけ展開するような方向性がいい
	子どものころから将来は地域にかかわるということを学ぶためにも、地域の大人たちができるだけ学校や子どもとかかわる機会を増やすと良い
	NPOや企業と連携して運営基盤を整えていくには、今の地域の共同管理という役割だけでは成り立たない。地域課題を解決するとか、住民自治といった自立していくイメージを将来像に描き込むべきではないかな。地域課題、おのおの違う課題を背負っているということもあるが、それを住民自治としてどうやっていくのかということ盛り込んだほうが良い
校区の課題や目標の共有に関すること	これからの高齢者支援、包括ケアをキョウドウ体で捉えていくならば、支え合うとか絆というだけではなく、共同体ではなくて共働体という最終イメージを出したらどうか
	地域が持っている過去の資源にフォーカスを当てた考え方としては伝統文化、自然・歴史の二つがあるが、現在から未来に向けて、今までなかった魅力を探り出したり、つくったりしていこうという、よりアクティブな感じの提言も要る
	自然や文化は当然まちの中にいっぱいあるが、こんな人がいて、こんなことをやっているようなものを引っ張り出し、それをパンフレットにしたりして、おもしろい取り組みをやったことがある。どんな人がいるというような、人マップというか、まちづくり人脈マップというような取り組みも以前見たときにおもしろいなと思った。どんな方がおられて何をしているか、意外と地元の方たちも知らないと思うので、有効だと思う

校区の課題や目標の共有に関する事	今後はやっている人たちの情報の共有みたいなものがあればいいのではと思った。地域の取り組みをもう少し福岡市全体や、区レベルでもいいので。もう少しこの将来像としては、情報を発信というか、共有できるような何かがあればいい 現在の各種団体、町内会の体制、連携も、地域の情報、地域が持っている条件の一つとして捉えて、校区ビジョンを策定する視点を持つ必要がある 校区ビジョンは、地域の課題、目標とそれを実践していく組織体制のあり方を含めた全体像で示す方がいい いかによそから来た人を一緒に巻き込んで、新しい地域の役員体制をもう一つ考え直してみる時期に来ていると感じている。今までのような年齢構成では、維持できない時代になってきていると思う
多世代交流の促進と場づくりに関すること	まちづくりや町内会組織に何も関係していない人たちに気づいてもらうことが、まず一番重要だと思う。 ほんとうは関心のない人が何人か委員の中に入って、実際その人たちが町内会をどう思っているのか、何で参加しないのか、そういう声を吸い上げたうえでどういう手を打っていくかという視点が、重要だったのではないかなと思う 地域は企業にとって全く関係のないものではなくて、長い目で見れば企業にとってもプラスになるものですよと、そういう意識づけをしていかない限りは現状を打破するのは難しいと思うので、できれば最終提案の中で、何で地域が必要なのかという意味づけのようなものをいれた方がよい もう少し広い視点での地域の位置づけを定めたうえで、検討していった方がいいのではないかな。 その中で、企業であったり、福岡の場合は大学の学生を活用すべきだと思っている。学生にとっても社会勉強になると思うし、違う発想で考えるという視点を、ぜひどこかに入れ込んでもらったほうがいい コミュニティの目標である助け合い、支え合うための基本条件となるのは、知り合うこと。信頼関係、ソーシャル・キャピタルと最近よく言われるが、その必要性を肌で感じてもらうことが必要。そのためには、カフェに代表されるような交流の場が重要で、条件さえ整えば、どの活動からでも、どの分野からでも交流の場を取り入れていく必要があるのではないかな 取り組めるところから取り組んで知り合う、知り合わない限りは信頼関係をつくり出すことはできない。そういった意味で、関心のない人を呼び込む、感じてもらうのは難しいが、そういう場面をどれだけ生み出していくのかということが必要 提言の中に、地域住民や地域や校区の中での企業のあり方や職場のあり方、そういうものをひっくるめて意識づけることが都市化してきた中で必要ということに記載することが必要

多世代交流の促進と場づくりに関すること	やっぱり若いとき、子育てしているときから、少しの時間でもいいので地域に目を向けていただくようにやっていかないと、ほんとうの人材育成はできないと感じている。 企業の方や今勤めている方たちが、定年になっていきなり地域のことをといても、それはちょっと大変だろうと思うので、そこをどのように意識づけしてもらうかというのは、地域の魅力ある活動をいかに発信して、一人でも多くの地域住民に、参加はしなくても自分の地域ではこういうことがあっているんだと知ってもらい、目を向けていただくしかない
	今までやってこられた方たちには敬意を表し、今までやってこられた方を生かしながら、地域はそれプラスアルファで、NPO法人や行政と一緒に活動する必要があると感じている。そこで核になる施設が公民館であり、公民館と自治協議会が一体になって活動し、あとは広報のあり方と、地域住民をどういうふうに巻き込んでいくのが課題
	人間はお互いに助け合っていかなくてはいけない、そういう情報をとにかく伝えることが大事だと思う。そこから先は本人の問題だから、我々にできることは、できるだけ多くの情報を流すこと
	65歳を過ぎてという話ではなく、町内会の活動をもう少し社会的にきちんと意義づけ、企業の人たちにも理解をしてもらい、研修の位置づけでもいいから自治活動をやってもらいと、少しずつ人材不足状態になっているところを脱していくきっかけになるのではないかな
	地域活動に参加することで学生にとってもすごくプラスになり、人間形成などにもいいだろうし、授業の単位として参加する大学が出てもいいのではないかな
	多世代交流の促進という面では、拠点ということでやはり場づくりがとても大事な。特に福岡は転勤族が多いので、もともと地元の人が少ないので、特に子育て世代の人たちをどうかするというときに、あそこに行けばどうにかなるというような地域での場づくりがあれば大分違う。それは、多分公民館にも求められているし、公園の一角という話があったが、イベント的に一時的にではなくて、何か継続的にできる場づくりがあればいい
	当面頑張らなければいけないテーマにできるだけ絞ったほうがいい。超高齢社会、2025年問題まで含めて、地域包括ケアシステムを立ち上げていく上で、組織としてどういうふうに取り組んでいくかという具体的な方策に絞っていくなど